

情報化整備が住民参加意識に与える影響に関する研究

呉高専 正員 市坪 誠 広島国際大学 正員 長町三生 呉大学 正員 今田寛典 森組 竹本昌幸
呉高専 正員 山口隆司 香川大学 正員 小松孝二 大阪大学大学院 学員 谷本泰雄

1. はじめに

近年、地域活動への関心の高まりから、住民の地域社会への参加が求められるようになってきた。ここで、情報技術の急速な発達により人々は様々な情報を容易に入手することが可能となり、今後の地域社会のあり方においても通信情報を積極的に活用することが求められる。情報化とは単に地域間のサービス格差の是正を可能とするだけでなく、地域住民の主体性向上や地域活動の活性化に寄与することが期待されている。

そこで本研究では、高齢者福祉の確立や地域振興を目的にマルチメディア共同実験¹⁾をおこなった広島県君田村を対象に、情報化整備に対する住民意識の経年変化や情報化が住民の地域活動に及ぼす影響について把握した。つまり、情報化と地域活動の因果関係を明らかとし、情報化が住民の地域参加に与える影響を検討するものである。

2. 実験概要

情報化が住民意識に与える影響を把握するため、コンピューターリテラシー、情報化および村の活性化に関するアンケート調査を行った（被験者 14 名、質問 12 項目）。質問は 5 段階 SD 評価とし、直接面談方式を採用した。調査時期は、第 1 期（98 年 10・11 月）と第 2 期（99 年 4・8 月）である。住民意識の経年変化を把握するため、第 1 期（初期）、第 2 期（後期）それぞれにおいて主成分分析をおこなった。併せて、情報化が住民の地域参加に及ぼす影響を把握するため、98 年 10 月のデータ（被験者 21 名、質問 14 項目）をもとに共分散構造分析²⁾をおこなった。

3. 結果及び考察

3. 1 住民意識の経年変化

第 1 期（初期）、第 2 期（後期）の主成分分析の結果をそれぞれ表－1、2 に示した。それぞれの累積寄与率は 78.6%、76.3% となり、ともに 4 軸に要約された。第 1 軸はともに「パソコンの使用度」であり、パソコンの使用性、操作性が大きく寄与することが理解できた。特に使用後期（第 2 期）には E メール操作が入り、パソコンを扱う上でメールが文書作成と同様の位置づけとなってきた。初期の第 2 軸が「パソコンの難易度」であるのに対し後期は「村の話題」となった。同様に、初期の第 3 軸が「村の話題」であるのに対し後期は「村の活性度」となった。時間経過とともに、パソコンに関する直接的

表－1 主成分分析による傾向（初期）

表－2 主成分分析による傾向（後期）

初期	主成分			
	1 パソコンの使用度	2 パソコンの難易度	3 村の話題	4 村の活性度
Q7 文書作成	0.447	-0.029	0.195	0.075
Q5 キーボード操作	0.385	-0.092	0.332	0.186
Q14 パソコン台数	0.371	0.140	-0.163	0.298
Q12 家族との話題	0.289	0.230	-0.147	-0.266
Q1 使用頻度	0.154	0.489	0.133	-0.143
Q13 村人との話題	-0.064	0.489	0.276	0.190
Q2 使用難易度	0.274	-0.367	-0.017	-0.205
Q8 Eメール操作	0.336	-0.155	0.525	0.011
Q16 村の現状分析	-0.341	0.132	0.516	-0.002
Q3 楽しさ	0.255	0.325	-0.399	0.292
Q17 村が成長しているか	-0.071	-0.369	-0.050	0.610
Q15 活動の現状	-0.171	0.147	0.076	0.493
固有値	3.921	2.579	1.516	1.413
寄与率	32.68%	21.50%	12.64%	11.78%
累積寄与率	32.68%	54.17%	66.81%	78.59%

後期	主成分			
	1 パソコンの使用度	2 村の話題	3 村の活性度	4 パソコンの難易度
Q7 文書作成	0.452	-0.224	-0.120	-0.053
Q8 Eメール操作	0.430	-0.186	0.203	0.008
Q5 キーボード操作	0.427	-0.202	-0.086	-0.095
Q1 使用頻度	0.368	0.310	0.051	-0.050
Q16 村の現状分析	-0.066	-0.565	0.128	0.097
Q12 家族との話題	0.073	0.459	0.180	-0.385
Q14 パソコン台数	0.076	0.134	0.516	0.508
Q17 村が成長しているか	-0.223	-0.289	0.513	0.041
Q3 楽しさ	0.324	0.161	0.368	-0.074
Q13 村人との話題	-0.049	-0.110	0.450	-0.477
Q2 使用難易度	0.305	0.015	-0.078	0.465
Q15 活動の現状	-0.164	0.330	0.113	0.345
固有値	3.921	2.250	1.742	1.241
寄与率	32.67%	18.75%	14.52%	10.34%
累積寄与率	32.67%	51.42%	65.94%	76.28%

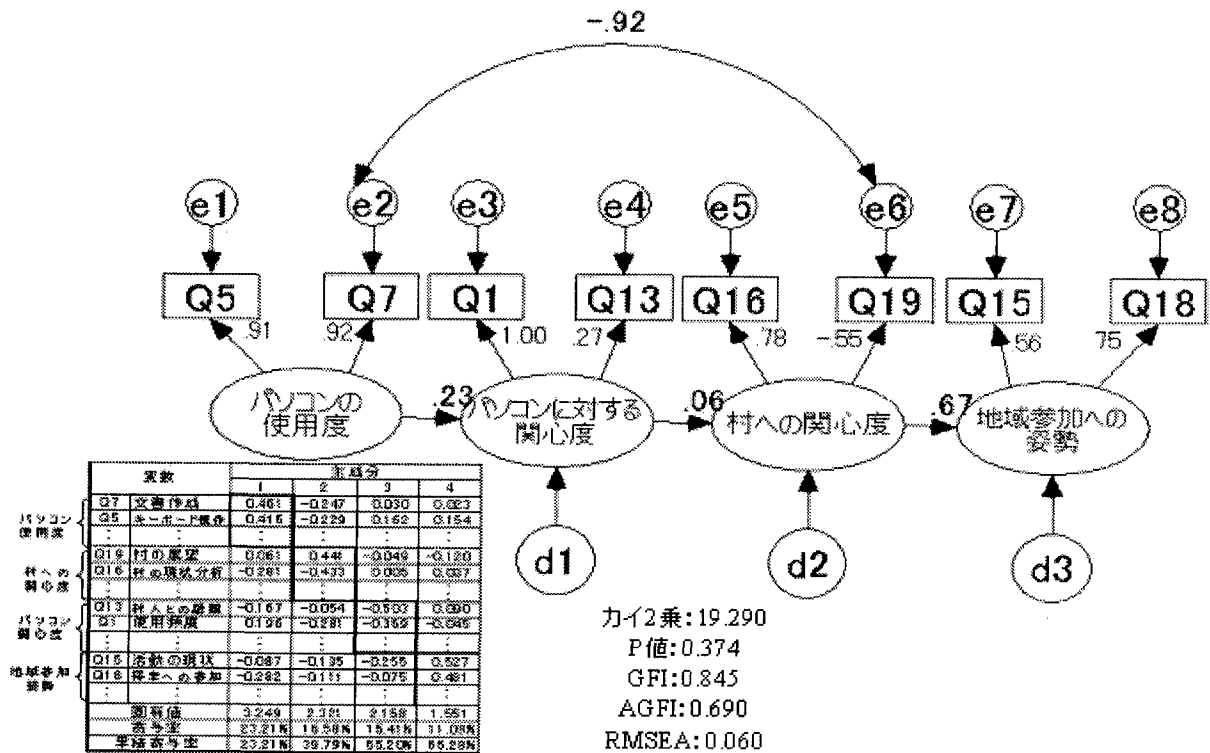


図-1 因果関係パス図

な話から村の話題や活性度に関心が移ってきていることが把握された。これにともなって、「パソコンの難易度」は後期に第4軸となり、初期に対しその寄与率が大きく下がることとなった。なお、村の話題や活性度におけるそれぞれの質問項目は若干変化する傾向にある。以上の結果、情報化初期にはパソコンに対する話題が大きく寄与するのに対し後期では村に対する関心が大きくなることが理解された。

3. 2 情報化が住民の地域参加に及ぼす影響

住民の地域参加への積極性を示す「地域参加への姿勢」と他の概念との因果関係を把握するため、質問を14項目（被験者21名）に増やしこれを共分散構造分析にて解析した（図-1）。パス図作成にあたり、いくつかの仮説を想定し検討を行った結果、「パソコンの使用度」、「パソコンに対する関心度」、「村への関心度」、「地域参加への姿勢」の順に連鎖するモデルが最も有力であることが把握された。つまり、「パソコンの使用度（使用状況）」から「パソコンに対する関心度（話題）」が増し、続いて「村への関心度（話題）」の高さから「地域参加への姿勢」が向上することが把握された。インターネットを通じた村へのアクセスが、村内情報の獲得に止まらず、村内活動への参加意識の向上に影響するということが理解された。

4. まとめ

本研究で得られた結果を以下に示した。

- 1) 情報化初期にはパソコンの話題が大きく寄与するのに対し後期では村に対する関心が大きくなった。
- 2) 情報化と住民の地域活動の因果関係が把握された。
- 3) インターネットを通じた村情報の獲得は村内活動への参加意識の向上に影響した。

過疎や高齢化が深刻化する中山間地において、情報化の整備は住民活動に対する意識向上に結びつくことが把握され、今後は活動に対する動機付けの理解が求められる。

<参考文献>

- 1) 君田村：君田村の地域情報化に向けた調査報告書、君田村、pp.1-10、2000
- 2) 山本喜一郎・小野寺孝義：共分散構造分析と解析事例、ナカニシヤ出版、1999